

第六章 本校勞作教育の營經

第一節 勞作教育の現在の地位

一、現代思潮と勞作の教育

現代思潮の主流は今や民族的、國家的となり、時代の要求は昔日の「氏より育ち」をして「育ちより働き」へと轉換され、働く人への要求關心が高められて來た。

而してあらゆる思潮は勿論、あらゆる學の上よりしても今や抽象的なるものより具體的なるものへ、分析的なるものより綜合的に、部分的より全體的に、法則的より實體的にと轉じ、現實に對しての眼を次第に根源的なるものへと推移して來た事は明らかなる事實である。従つて近代思潮の價値の基準は認識より理解に、理解より體驗に、體驗より行動へと移つて來たのであつて、生活の態度の主點は認識より實踐に措かれ、凡ては實踐的態度へと轉じたと言ふことが出来るのである。これを言ひかへれば即ち中心的なるもの、具體的なるもの、根源的なるものを求めるに至つたのである。

之れを教育上に見れば生活に於ける意志の意味を承認し最も具體的なる行動と實現に價値の基準を求める傾向となり、生命の陶冶としての教育に於て生活に於ける意志の自覺として最も根源的な具體的なるものによつて教育すべきであるとせられるに至つたのである。

かくの如く現代思潮の根本を流るゝ原理的なるものは具體性であり、全體性、根源性の要求であり、教育の思潮も亦此の要求の上に立つものである事は事實に於て立證せらるゝのである。

具體性であるといふのは事實的、行爲的、實踐的、直觀的である事であり、全體性であるといふのは常に綜合的、聯關的、統合的、一體的である事であり、根源的であるといふのは、知と行との合一、行に於ける我と物との合一、心身一如の基に立つものであると見る事が出来るのである。

凡そ現代教育が最も具體的なるものを通じて常に全體の中に於て然も最も根源的なるものに發し、且つ最後に自覺的に還元してゆく事を以つて其の主張とするならばこれこそ眞の働きであり、まことの働き「勞作」を通してななければこの意味に適へる全き教育を遂行する事は出来ないであらう。勞作の教育こそ眞の生活陶冶であり、生命の教育であり現代教育の根柢をなすものである。

二、皇國の現状と勞作の教育

有史以來の重大時局下に自主獨立し斷乎として東亞新建設に邁進する皇國は國家の總力を擧げて聖業の遂行を期し皇國理想の實現に努め、百般の意圖亦國策遂行に當らざるものはない。此の時局に直面する教育は國家總力戰の重大なる一面を負ふことを認識し其の使命と教育力を自覺し、普佛戰爭に於ける自己の勝利を教育力の功にありとしたモルトケ將軍の言を自らの上に歸せねばならないのである。

長期建設下の教育は今や積極的、突破的、持久的、雄飛的、良心的、舉國一致的に其の目標を確立して日夜國策遂行に精進し、あらゆる方向、角度より時局對策、或は次代への大國民的教養をなさねばならぬ。

かくて我々はあくまでも大御寶としての師道を自覺し自ら皇道實踐の行者として熾烈なる愛國的熱情を抱くと共に透徹せる教育的理知を忘れず、今日此の現状を深く認識して此れに處する教育と、次代を見通して國家の負荷に任すべき大國民を教養すべく適切妥當なる教育實踐に邁進せねばならぬのである。

而して皇國の現状は否此の時代は今や我々の前に双手を擴げて、心身一如の實踐力を、敬虔的報恩の働きを、誠なる協同的奉仕を、或は堅き意志と強き實行力を、勤勞以つて最善を盡す熟練と技術を、剛健敢爲の氣力を、體力を、と眞に興亞國民としての全き人格を……求めてやまないのである。

然らば此の時代に即し此の要求を満足せしめ得るものは何であらうか。これこそ勞作を通じて爲される教育によるの外なく勞作の教育こそ眞に皇國の現状に即すべきよりよき教育方法の根本原理であると信するのである。

今や國を擧げて集團勤勞作業は實施され、勤勞奉仕隊となりては國家的に、郷土的に、勤勞愛汗の鍬は振るはれ、農民道場、市民農園、或は緑化運動等と、之れ等を擧げ來れば其の數十指を屈するであらうが、之れ等がすべて皇國の現状に即し、時代の要求に即し、或は内なるものゝ要求に即して或者は國家精神の強調に或は協同精神の實踐に、心身の鍛練に將又愛國愛土の精神的發露にとそれ〴〵行を通じつゝ體験的により強く實踐されつゝある事は勞作の教育的地位を最も雄辯に立證するものであつて、今更茲に其の重要性につき論ずるを要せぬのである。

三、國民學校制の精神と勞作の教育

國民學校制についてはすでに第一章第一節及第二節に於て述べし如くであり、勞作の教育が持てる地位如何は本章第一節並第二節に於て委しく述べ來つた如くであるが、是等既述よりして兩者の關聯は密接不離である事は自明の理であり、國民學校制の實踐の根本的方法原理は勞作によるの外はないとの結論を得ると言つても、あへて過言ではあるまいと思ふのである。(此の點前記各節並に次章勞作の根本原理参照熟讀を乞ふ)

即ち國民學校制の特色であり、其の根本精神たるものは國體の根源性たる皇道に歸一すべく人間活動の根源性たる心身一如の行動を鍛鍊せんとする皇民的生命の鍊成教育である。行動の教育であり、智慧の教育である。行動の教育であり、

智慧の教育であり、知行合一の教育であるが故に其處に鍛鍊が生じ事上鍊磨が大切となるのである。従つて其の教育は抽象的知識の注入ではなく、具體的眞知の教育であり、觀念的語込主義の教育でなくして勞作體験による體識體得の智慧の教育である。

教授と言はず、訓練、體育と言はず是等が相關的となり常に智徳心身一體の一元的立場から行じられねばならない教育である。即ち鍛身是鍊心であり、物心一如、心身一體の行が加へられ、鍛身行が同時に知識の啓發に參畫して眞知の獲得に本質的契機となるやうに行じられねばならないのである。例へば勞作の身體性が教室内にも移されて學習の補態となるは勿論、知識的なる單なる學習の中にも亦鍛身の氣分旺盛して眞知を得るやうになさねばならぬのである。

かくの如く國民學校制の實踐上より見ても、或は又根源性に立脚し、行動的、實踐的、行的に具體性に即しつゝ、然も關聯的に綜合的に、統合しつゝ全體性を求むる其の根柢より見ても勞作の地位の如何に重要性を持てるかは明白であつて、國民學校制實踐上最も妥當なる根本的方法原理は勞作の教育であると言ひ得るのである。

第二節 勞作教育の根本原理

一、具體性の原理(哲學的見地)

あらゆる思想に關してその最も中樞的なるもの、基礎的なるものゝ學を哲學と言ふならば、哲學と教育との關係を何人も疑ふものはないであらう。否哲學とは獨り思想の學ではなくて、生命の根本原理の學であるならば、それは生命の陶冶としての教育に最も根源的な密接な關係をなす筈である。この故に近代に於ける哲學思潮の變遷とその動向はそこに深き教育の指向の必然を示唆してゐることを觀取するに難くないのである。近代の哲學が主知主義より主意主義への轉廻をな

し、知識をもつて就中悟性をもつて學問の、認識の根本的な作用であり、決定的なる基準であるとし、それをもつて生命一般の終極基準としようとするに反し悟性に優位する意志の機能を認め、意志が意識に於て、生活に於て、もつ基本的なる作用とその基礎性を認めようとするに至つたのである。この悟性萬能の知見に立つたのが所謂啓蒙主義である。これは自然科学の大いなる業績を齎らしはしたが、その自然科学的世界観は却つて人間そのものを自然化し、意識そのものを物化するに至つた。唯物史觀の悲しむべき偏陋の知見もこの啓蒙的主知主義の必然の歸結としての行詰りを齎らしたものに外ならなかつたものである。しかし主意主義的な自覺は人間をこの自己送脱より自らの中核的なものに歸り、生動的なる自らの根源を自覺せしめる。

かくしてこの主知主義と主意主義は先づ物の見方、認識の態度の相違に著しく現れ、具體的なもの、中心的なもの、根源的なものを求めるに至り、一般に生活の態度を實踐に措く實踐的態度に轉じ、最も具體的な行動と實現に價値の基準を求める傾向となつたのである。

この傾向は生命の陶冶としての教育に基本的なる影響を齎した事は言ふ迄もない事であつて、生活に於ける意志の自覺は教育上最も根源的な具體的なものによつて教育すべきことを指示する。これ即ち「具體性の原理」である。即ち近代哲學の思想上の變遷に示されたる必然性はこれを教育的に自覺すれば、最も具體的な基準より教育は發し、且つこれに規則せらるべきことを奨める。これが勞作教育の第一の原理でもあり、またそれがもつ本質的な意味でもある。

二 現實性の原理(科學的見地)

近代に於ける科學的殊に自然科学的の根本的動向が教育に如何なる必然を要請してゐるであらうか。近世の自然科学的の考へ方、一般に科學的精神といふものゝ本質は一言にて言へば即ち「實證的」といふことである。實證的とは、眞の科

學的認識がもつべき眞理といふものは、單に觀念的に考へられ、論理的に論證されたる丈では單に假設たるに止まるのであつて、寧ろこれ經驗的なものゝに於て實際に證明されなければならぬのである。即ち眞理は實際的效果をもたねばならぬとする。自然科学にて眞の論證を獲得することは、嚴密なる計數的方法に適合して、原因と結果が必然的な聯關に於て證明されることであるが、その論證はすべて經驗の領域に於てである。自然科学が單なる假設を終極に價値あるものとして認めないといふことも、假設は經驗の妥當性をもたぬからである。

この點より言へばこの科學的と先きの哲學とは一見全く相反するが如くであるけれども、併し決してその根本に於ては相矛盾するものではない。共に具體的なものに迫りゆく精神の表現としては一なるものをもつてゐるのである。只哲學的にはこれを經驗とか、實踐とかの根源的なものに於てその基準を見んとし、科學的なものはこれを經驗しうる現實に於て證示しようとする特質をもつのみである。

即ち哲學的とは求心的であり、科學學とは遠心的なるの相違あるのみであつて、共に具體的精神の兩方向を示してゐるものである。殊にこの科學的實證の考へを哲學思想的に取り入れて組織したのは實用主義である。

上述の如き科學的實證的精神や、それに相應する思想の現實的傾向はその眞相に於ては一般に吾等の生活に於ける經驗の意味を承認し重視するものである。この一般的傾向が含んでゐる必然は教育に對して何を指示し要求してゐるであらうか。一般的な生活と思想の中にあつて、その實現的要求たる人間の陶冶をなす教育には、やはりこの要求が原理的に働いてゐなければならぬ。

教育に於ても等しくこの經驗の重視、經驗に於ける事物の意味が承認せられ、現代教育はこれを方法的にも取り入れてゐるのである。それは言はず即ち、即物の教育である。

あらゆる抽象と假設を去つて眞に具體的に現實に於て陶冶の効果を擧げようとする。即ち一般に實證的、經驗的な科學

的思想が教育に於て表現せんとするもので此れを「現實性の原理」と言ふのである。これ勞作教育が現代の基調よりもつ第二の根本原理である。

三、體驗性の原理(心理學的見地)

近代の心理學の一般的趨勢はこれを一言にして言へば心の分析的より有機的作用觀に轉廻しその徹底を見んとしてゐる。思想に於ける近世的なるもの、曙光は私の自覺に初まつたが、デカルト以後これが考察は、主として自然科学的研究の方法の適用と二元論的基調の影響の故に、心身並行論として繼承された。しかしこれに含まれる心身相關の事實については終に完全に説明する基礎を失つた。

この心身の二元論的間隙を合一せんとしてライブニッツは自覺的單子の多元論に於て一應の説明に成功したが、それは後に又科學的分析的な方法と結合して心の原子論となる。近世の心理學の鼻祖ヘルバルトに於てもヴントに於ても、不幸にしてこの分析結合的特質を方法的に適用することによつて多くの成果を齎らし、自らに人の注意をひいた。

しかし心は畢竟統一的なるものであり、意識の根本性格は連続にある。現代の心理學は大體に於てこの原子論の補正と反動にあると言ひ得る。殊にこの反動的趨勢に他の方面より強き影響を働いたのは生物學と生理學の研究であり、現代の心理學は、心の考察に動物心理學的な影響を餘りに基礎的に受け過ぎた様である。とにかく、この傾向に於て、心は身體的なるもの、精神は本能的なるもの、意識は無意識的なるもの、基礎の上に説明せられた。ジェームス、ランゲ等の情緒に關する見解の如き初期にこの傾向を指示したものであり、一般に生理學的心理学、精神物理學的研究はこの方向に科學の嚴密測定の方法を結合したものである。具體的なるものより心の一切を説明せんとする行動論心理学や、意識を常に全體として見、分析的要素以上の心的基礎を措定する形態學説の如きも、それ々の特色は維持し乍らすべて同一の現代的

特色の現はれと見ることが出来る。これらの心理學的趨勢は一般に吾等の生活に於ける身體の意味、筋肉の意味を充分に承認したものである。

これ等の動向が含む必然性は教育に對して何を指示するであらうか。それは心を單に斷ち切られた心としてではなく、心身を常に全身的なる見地に立つて、その相關を重視し、身體より心を研究し、身體を通じての心の教育を推奨せる事にある。單なる心の心理學でもなく、又單なる身體と筋肉の心理學でもなく、眞に心身一元の根源的なる實在よりの基礎的説明がなされ教育はこれを陶冶に於て實現し作用せしむべきである。もし心身の究極の一元的なるもの、自覺を、根源的なる意味に於て體驗といふならば、心理學的動向が指示し理念とせるものは等しく人間の陶冶に於ても原理として支持さるべきで此れが即ち「體驗性の原理」である。

心の全體性を自覺するのみではなく心身の、我と物との根本的合一、こゝに眞に一元的なる生命の基準が見出される。かゝる根本的生命的體驗を原理としてもつ教育は、單に心の教育ではなく、知識の教育ではなく、最も根源的なるものに結合する陶冶、なす事によつて學ぶ教育でなければならぬ。これ自ら勞作教育の第三の原理をなすものである。

四、事行性の原理(倫理學的見地)

倫理學的もしくは道德的知見の許に見るとき現代の教育は如何なる指向を含んでゐるであらうか。それは一言にして言へば、社會の道德的現象の、特に道德的陶冶に關しての行的、實踐的性格の自覺にあると言ふことが出来る。言ひかへれば道德の單なる知性的觀念や、先天的思想は去られて道德的陶冶に於ては、眞に行動としての修練に重きをおくに至つた。

この事は固より獨り現代のみのことではなく、古くソクラテスの知行合一の思想や歐陽明の良知説、或は藤樹の良知

説がある。ソークラテスは眞知を普遍的なる本質とし、その眞知に至善と幸福との合一を認め、これを實踐を通してのまことの自覺によつて達し、これによつて希臘の道德思想をその頽廢より救ひうると考へたのである。

陽明が良知の内在を認めつゝ朱子の主知主義に反對し、眞知を致すことは事物に即してこれを格し、只實行の修練によつて物我の合一に於てその宜と誠を得るにあるとした事上練磨説は少くも實踐哲學としては儒老佛を攝して玉成せしものとして東洋思想の光輝ある一成果であると思はれる。

かゝる知と行との合一に於て、あらゆる知と經驗の基礎的原理を明確に見出し、理論づけたのはフイヒテの哲學である。彼は究極の知は即ち事行であり、この根源に働くものが即ちすべての形成と陶冶の基本であるとした。彼の人格陶冶、國家教育の理念は實にこの根本的な行動主義、勞作主義より出づるのである。

近代の倫理思想は内面的な純粹價值感情による具體的表現や、根本的な行爲的實現に倫理的なるものゝ基準をおかうとするのであつて、この傾向に含む主要なるものは知行合一の根源をもつて、道德の根本原理となさんとする所にある。即ち知は必ず行となり、行のみが眞知となるべきことを主張する。しかしてかゝる根源こそすべての物より制約され外的なるものより受動すべきものではなく、根源的なるものは眞の自發的であり自律的であるべきものとなす。

かゝる倫理的なる知見はその教育陶冶上の意味について見るならば、それは一言にして生活に於ける行の意味を十分に承認せられたことであると言ひ得よう。言ひかへれば行を通しての眞の自覺に迄の教育の必要を指示するものであり、眞の一元的な自發的な自律的な根源よりの行を通しての生の陶冶を示すものである。故に此の意味に於て勞作教育の第四の原理となすべきは「事行性の原理」である。

五、勞作性の原理(社會學的見地)

社會學的領域に於ける根本的な趨勢は教育に如何なる必然を指示するであらうか。近代社會の變遷の著しきものを特に教育に關係ある限りにて言へば、それは有閑階級の主知主義の教育が、その觀點と意味内容に於て全く轉廻したことがある。

昔は學問と教育とは有閑階級にのみ屬するものとせられ教育とは即ち知識の教育とせられた。従つて教育とは凡そ生活と直接の聯關なく、その知識が生活に役立ち、生の統制の原理たる力を示すことは寧ろ偶然のことであつた。

然るに現代社會の一般的趨勢はこの傳統的知見を打破した。現代にては知は力であり、その生に於てその妥當する力を示さねばならぬ。道德が生より離るべからざる様に、教育は言ふ迄もなく生活の教育、生活に迄の教育でなければならぬ。そこにはおのづから、凡ゆる抽象と怠惰の排斥がある。

特に勞働階級の自己認識と勞働を通じての社會に對する存在の權利の要求を見る。そこには勞働神聖の觀念とそれに基づく生存權、勞働權の要求をもつてゐる。

今や教育は生存の裝飾のためではなく、生存者の生存に迄の教育でなければならぬ。生に基づく生の教育は即ち勞作による勞作者の教育でなければならぬ。又これを世界の現實大勢に見てもこの動向の根本的に力強きを見る。多年英國を支配した勞働黨の教育政策のこの國教育思潮の浸透を見よ。獨逸に於ける共同社會的勞作主義は今日の國家社會主義勞働黨(ナチス)の教育政策の實行、伊太利の産業立國に基づく共同勤勞の標榜、更に米國にて主張する教育の工場化は言ふまでもなく、露西亞に至つては教育の勞働化を大規模に實施してゐる。我が國に於ても最近時局下に即ち勤勞作業の愛國的運動が實施されつゝある。

現代社會の根本特質の教育に對しての要求は實に生活と教育の一致であり、寧ろ勞働と教育との合一である。この趨勢は教育に對して切實に社會生活に於ける勞働の意味を自覺せしめた。しかも此の事は勞働に迄の教育と同時に、勞働を通

いての教育の意味を覺らしめたのである。

こゝにこれを「勞作性の原理」といひ勞作教育が社會的現實より必然的要求せられる所以である。只一言注意すべきは教育に於ける勞作性の意味の承認であつて、勞作なる言葉の意味内容を能ふ限り廣く理解し、ひとり筋肉勞働、物件的勞働のみならず、廣く精神的に且つ深く根源的でありたい。教育の勞作化は必ずしも學校の工場化ではなく寧ろまことの勞作の意味に於いての體得體識であり、勞作の教育は即ち勞作的人間への教育である。

六、生産性の原理(經濟學的見地)

經濟學的領域に於ける動向が如何に教育の基礎を指示し制約するであらうか。現代生活を過去のそれに比するにその最も著しい特色は價值觀の顛倒である。過去に於て價值ありとされた單なる傳統的なるものは、すべて新なる價值の視點の許に見られてはその色を褪せしめた。

かつて「氏より育ち」と言はれたことは如何に氏が昔の價值評價の先入觀念であつたかを示す。そしてこの「育ち」なる概念が價值評價の基準として自覺されたことは、個人的、人格的觀念の出現として近世的なる特色を示すものである。更に今や吾等には育ちよりも「働き」の時代である。そしてその働きは殊に現代にては多く經濟的價值によつて評價せられる。吾等の生活が切實に經濟的なるものに制約せられてゐることの今日より甚だしきはない。

然も今や重大時局に直面し長期建設の下に立つ我々は經濟的に物質的に深い關心を持ち國家總力の一翼としての重大なる地位に立つてゐるのである。然し吾等は單なる唯物論者でもなく、單なる唯心論者でもない。眞に具體的なる一元的根源よりして生の陶冶を考量せねばならない。

而してかゝる一元的なる陶冶の原理は自ら現代の生活の特色をなすところの生活に於ける經濟的價值觀の強力なること

を充分に自識してゐるものである。しかして此の經濟的價值を生産するものは只ひとり勞作勞働をおいて外にない。

かゝる點よりして現代教育は更に經濟生活とのより密接なる關係に立ち、教育の經濟性、經濟的教育性がより根本的に自覺されねばならない。かくしてのみ教育はその具體性を眞實に實證しうるのである。

かくしてこの現代的傾向がもつ必然性を教育に於て把握實現せんとする勞作教育は、殊に、教育を經濟生活に結合し、職業陶冶に修練せんとするもので生産的性格をもつ人格陶冶をなすものである。今や教育が一般陶冶を抽象的に分離し、これを觀念的に實踐せんとするは教育の遊戲化であつて、むしろ教育を蠱毒するものである。これ勞作教育が特に經濟生活の地盤より汲み來つた根強き要求であり特質であるものは「生産の原理」である。

七、陶冶性の原理(教育的見地)

以上六つの觀點より勞作教育をそれ〴〵の思想的なる背景と、それ〴〵の領域に於てもつ必然性を自覺し把握して六つの原理を示したのであるが、さて勞作教育はこれらの原理を、もしくは必然を具する要求を教育陶冶なる一根本原理に統一しなければならぬ。然らばこの根本的原理は如何なる概念をもつて表示さるべきであらうか、これ只「陶冶性の原理」といふより外ないと思ふのであるが、以上にあげしそれ〴〵の諸原理は一勞作教育なる理念の許に包攝せられてそれ〴〵の意味をもつものであつて勞作性を特徴とする點より、他との對比の上より言へば「勞作性の根本原理」といふの外ないであらう。

しからば此の根本原理は如何なる特色をもつであらうか。これ先きに縷々述べ來つた三つの根本的特色たる具體性、全點性、根源性の三つをもつと言ひたいのである。

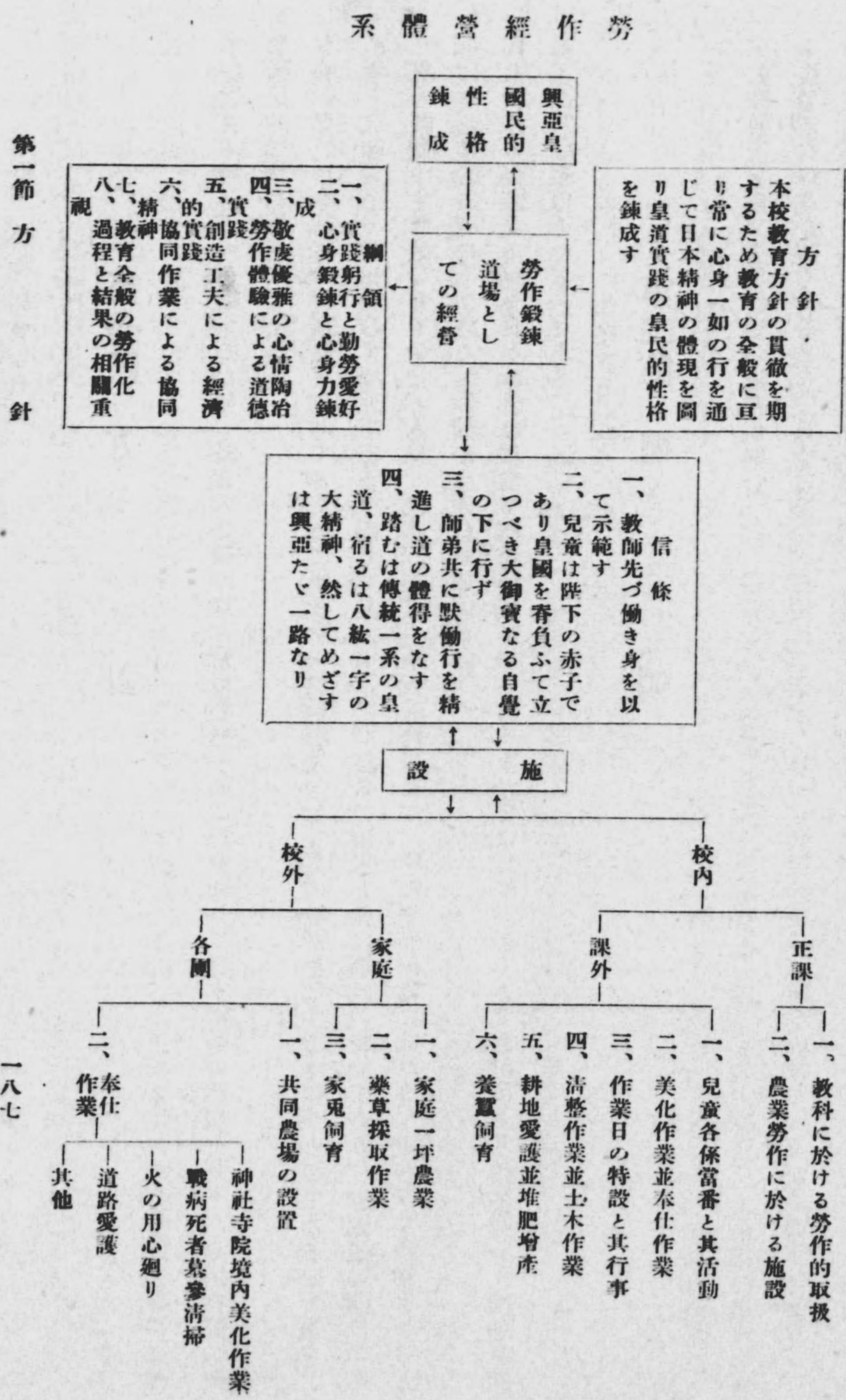
然してそれが具體的であると言ふのは事實的、行爲的であるが故であり、それが全體的であると言ふのは常に綜合的、

聯關的であるが故であり、それが根源的であるといふのは知と行との合一、行に於ける我れと物との合一の基抵に立つが故である。最も具體的なるものを通して、常に全體の中に於てそして最も根源的なるものに發し、且つ終極にこれに自覺的に還元しゆくこと、これこそ眞の働きである。まことの働き「勞作」を通してなければこの意味に適する全たき教育を遂行することは出来ないのであらう。

かゝる勞作の教育こそ全たき意味にての生活陶冶であり、生命の教育である。それは作すことによつて思考し、學ぶ教育であり、具體的なるものを通して生命を陶冶することであり、生によつて生を陶冶することであると言へやう。實に勞作教育は生活教育の方法的、過程的なる特質をもつものであつて、切實なる迫力と必然性をもつた自覺を吾々に要請するものである。

かくて教育のことはすべて最も具體的であり、全體的であり根源的でないならばならないと信するのである。(第六章、第一、二節参照)

第七章 勞作經營の實際



第一節 方針

本校教育方針の貫徹を期するため、教育の全般に亘り常に心身一如の行を通じて日本精神の體現を圖り、皇道實踐の興亞皇國民的性格を鍊成す。

本校教育が日本教育の實踐徹底を期するために學校を一つの道場として其の經營をなすことにつとめてゐるのである。道場とは即ち道の體得をなす場所である。而して其の道場の經營の根本要件は學校の統制であり、寮圍氣の醸成である。然も統制の主體的なるものは、人格、校訓、校風、全校勞作であり、學校全體が常に此れ等により強く統制されるところに無意識的に魂にくひ込んだ修練がなされるのである。

日本教育の根源たるべき日本精神は理論や概念を以て解されるものではなく、あくまでも行により行を通じて體驗を深めるところに體得されるのである。

第二節 綱領

- 一、實踐躬行を尙び勤勞好愛の慣習に努む
全校兒童に作業を課し各分擔を定め常に勤勞の環境に生活せしめつゝ、勤勞好愛の氣風を醸成し、之が實踐徹底を期し、旺盛なる興亞皇國民的實踐力の修練をなす。
- 二、心身の鍛鍊を重視し剛健敢爲の意志と體力の鍊成に努む。

よりよき鍛鍊重視主義の勞作を課するため常に兒童心身の力を考慮して強き勞作に従事せしめ此れに耐へ征服し行く心身の鍛鍊をなし堅忍持久、質實剛健の氣風を作興す。

三、敬虔なる心情を培ひ高尚優雅なる情操を養ふことに努む。

自然を愛し自然に親しむ土の勞作により自然に對する深き認識を通じて敬虔なる宗教的心情を養ひ、動植物の生命愛育により萬物有生命觀の性情を陶冶す。且勞作による生産はすべて己が魂の現れであり技術による一つの藝術的作品たるを自覺せしめ此處に生るゝよるこびとほこりを體得せしむ。

四、勞作體驗を重視し、道徳的實踐陶冶に努む

觀念的なる道徳的陶冶にあらずして自ら體驗し、實踐する體驗的、實踐的なる生きたる道徳的修練をなす。

五、創造工夫の生活を重視し、經濟的實踐陶冶に努む。

物的價值、經濟的價值を體驗せしめ、生産的に創造工夫を高め勞作に於ける價值ある創造的なる生活を認識せしむると共に生活教育、經濟教育、職業教育の一般的基本的陶冶をなす。

六、協同作業を重視し社會的、國家的協同精神の陶冶に努む。

一齊作業、分團作業を全校的に課し、全體的、或は分業的に實踐的寮圍氣を旺盛ならしむると共に協同、和合、奉仕、責任、遂行等の生活を鍊成す。

七、教育の全般に亘りて勞作と有機的聯關をはかり其の徹底に努む。

教授、訓練、體育、勞作の相互に有機的聯關をはかり常に勞作を通じて體識、體得せしむると共に智徳心身一體の教育により體驗的、具體的に生きた教育をなす。

八、過程と結果の相關關係を重視し勞作指導の萬全を期す。

自發活動を重んじ勞作目的を決定し、合理的方法手段を探究し、克己、忍耐、努力以て目的遂行を圖り其の達成實現を期すべきであるが、其の結果に對しては必ず批評及評價を行ひ、よりよき結果はよりよき過程に於て生ずるの理を體認せしめ、正しき人生觀を養ふことに努む。

第三節 勞作實施に對する教師の信條

- 一、教師先づ働き身を以て示範す。
學校生活の總べては道場の經營としての統一的根據たるべき校訓の内容的發揮、即ち人格的發揮でなければならぬ。教師は教育主體として常に校訓の發揮者となり、生きた校訓となつて常に其の人格に統一をなさしめなければならぬ。
- 二、教師先づ働き身を以て示範す。
而して人格的發揮の實行法は唯勞作による外はない。教師は自らが皇國教育者としての分と使命を自覺し絶えず兒童と共に働き共に行じ、共に反省し、眞の師弟同行として勞作の根本精神を自覺し確固たる教育理想の下に「教師先づ働け」をモットーとして教科並學級學校の施設經營に對し、全我を投げ込んだ眞剣なる研究努力を捧げ、教育者たるの聖職を樂しみ、以て率先示範常に黙々として働き校風の樹立と己が職分を通じて皇運扶翼の大道を行す。
- 三、兒童は 陛下の赤子であり皇國を背負ふて立つべき大御實なる自覺の下に行す。
教師は忍耐、平靜、慎重、公明正大よく自制心を以て教育に當り、陛下の赤子をして眞に大御實たらしむるため常に生長する若きものへの愛により、教育することへの愛と樂しみを以て自他を鍊磨し、研鑽怠らざるを要す。殊に勞作指導に於ける教師は實に自己自身眞に勞作者であり、日夜怠らざる人でなければならぬ。
- 然も兒童と共に自己自身も亦價值的共同社會の一員であり、學校家族の父母であり、上御一人の大御實であるが故に身を以て實行し範を示し、親心としての捨我奉仕により和協一體親子共に熱心、忠實に行じ兒童をして興亞皇國の負荷に任すべき眞の大御實たるの自覺を持しむ。

三、師弟共に黙働行を精進し道の體得をなす。
勞作は常に師弟共に働き共に行じ共に學びつゝ互ひの魂にふれ合ふ人格的雰圍氣の中になごやかにして然も嚴肅なる黙働行を精進し、靜の緊張の中に鎮魂歸神以て道の體得をなさん事を念じ、日本民族としての落ちつきと腹を鍊り深く、廣く、強き興亞皇國民的なる性格を鍊成す。

四、踐むは傳統一系の皇道、宿るは八紘一字の大精神、然してめざすは興亞の一路なり。
勞作鍛鍊道場として我等が踏み歩む道こそは將に新しい世紀の開扉と共にさつと輝き出でし悠遠なる神國日本の光芒の中に燦然として無窮の天地に通じて無碍の白光を放つ傳統一系の皇道である。

而して此の胸此の五體に宿るは八紘一字の大精神であり、師弟同行敬愛の至情が親心的なる師道の實踐となり、子心的な弟道の實踐となつて、親子（師弟）相互の眞實なる捨我奉仕となる家族精神である。
至誠眞實の親心子心——それは和の根源であり、敬愛至情の源泉である。この根源、この源泉にこそなごやかにして温く、ひろくして豊なる興亞をめざす八紘一字の家族的精神がある。我等はたゞ興亞の一路をめざして行するのである。

第四節 各學年勞作指導方針

一、尋常科一、二學年

1、遊戯活動より次第に作戯活動へと誘導すること。

イ、具體的行動の中に指導をなし計畫的なる勞作へと指導すること。

第三節 勞作實施に對する教師の信條、第四節 各學年勞作指導方針

- ロ、興味中心に指導をなし次第に勞作への興味を味得せしむること。
- 2、斷片的なるものより次第に繼續的作業へ指導すること。
- 3、各科の綜合的聯絡を圖り兒童の活動部面を大ならしむること。
- 4、すべての勞作に於てたへざる勇氣づけをなすこと。
- 5、興味と愛着の心情によつて常によるこびの勞作たること。

二、尋常科三、四學年

- 1、作戲活動より次第に勞作活動へと誘導すること。
 - 2、一、二學年の指導方針をよりよく發展せしめ深めること。
 - 3、斷片的なる活動を工夫、計畫、實行の一連の勞作活動へと深めること。
 - 4、繼續的作業を指導して陶冶の主眼を狭く單一化する事。
 - 5、結果を次第に重視する前提として過程を重視すること。
 - 6、勞作することに興味をもたすことを心掛けて、たへず獎勵して勇氣づけと工夫をなさしめて、自己活動を指導すること。
 - 7、勞作は常によるこびの中に行はれること。
 - 8、各科との連絡を圖り常に關聯作業を重んじて體驗をなさしむこと。
- 三、尋常科五、六學年
- 1、研究、思索、作業の一元的地位を求め、よりよき勞作的態度の建設をはかること。
 - 2、協同作業を重視し社會性、合理性、個性の尊重をなすこと。

- 3、奉仕的作業の眞意義を體得せしめることに努めること。
- 4、學習に於ては爲すことに於て思考し學ぶ態度を養ひ自發活動を重んじ自己卑下の態度を除くことに努めること。
- 5、結果を重視して其の處理を教育的になすこと。
- 6、完成へのよろこびを味得せしめること。
- 7、すべてに眞面目に働くことが、自己の職分を通じて奉公の誠をいたすことであるといふ日本的なる態度と自覺を喚起すること。

四、高等科一、二學年

- 1、全學年の充實を期し作業の發展をなさしめ實務的陶冶に努むること。
- 2、勞作は繼續的、身體的、鍛鍊的のものを重視し、努力と忍耐、汗と協同の實體たること。
- 3、學習に於ては自己證明的自發活動により積極的態度の鍊成を圖ること。
- 4、一事徹底主義により全精力の集中をはかり、自力による自助的精神を鍛鍊すること。
- 5、現實生活に即せしめ、働く人、勤勉力行の人へと念願し、現實の實踐行を指導すること。
- 6、勤勉力行の國民性を涵養し、自分の務を全うすることに徹したる人物の養成を念ずること。
- 7、技術と結果を重視し職業に關する基礎的教養に努むること。

第五節 各科教育の勞作的取扱の要諦

一、國 民 科 (國民精神の徹底)

1、修 身

- イ、兒童生活及環境に對する諸調査を行ふこと。
- ロ、社會的生活への導入及各行事により郷土的、國民的道德指導をなすこと。
- ハ、修身教授即訓練の本質により實踐躬行の指導をなすこと。
- ニ、勞作作業の機會による道德體現の實踐指導をなすこと。
- ホ、敬愛の實踐たる作法指導により道德的精神の具體化を圖ること。
- ヘ、修鍊日記の記入により生活實踐強調をなすこと。

2、國語

- イ、勞作による國語學習上の諸原理。
 - (イ) 生活を基調とすべきこと。 (ロ) 自己究明を重んずること。
 - (ニ) 直觀を重視すること。 (ホ) 作業を重視すること。 (ハ) 創意創造を重んずること。
- ロ、國語學習(理解研究)を促す勞作。
 - (イ) 作業化、繪畫化、工作化。 (ロ) 行動化、實演實習。 (ハ) 觀察、見學
 - (ニ) 材料の調査蒐集。 (ホ) 表解、圖解。 (ヘ) 參考書による自己研究。
- ハ、國語學習の展開としての勞作
 - (イ) 繪畫、工作。 (ロ) 朗讀、對話、劇、文章、話方による表現。
 - ニ 文字收得活用の勞作。
 - (イ) 書取練習 文字語句の類集作業 カード練習 短文、熟語構成等。
 - (ロ) 漢字一覽表 漢字集め 國語の人物調査等。

3、國史

- イ、教師の信念をもつて兒童の全人的精神活動を旺盛ならしめること。
- ロ、修身、國語、地理等と聯絡して日本人の志操の涵養をはかること。
- ハ、郷土的取扱ひ、實地踏査等により國史の興味を喚起すること。
- ニ、具體化をはかるために資料標本の調査蒐集、製作、事實の劇化表現等勞作化すること。
- ホ、批判の訓練を重視すると共に人物、事件を取扱ひ文章表現をなすやう指導すること。
- ヘ、年代表、圖表の作製、ノート作製、地理的事項の圖示等つとめて勞作化すること。
- ト、國史物語の良書選擇と國史興味による讀書指導をはかること。

4、地理

- イ、郷土化をはかり實地觀察(地理實習)を重んずること。
- (イ) 地形の觀察。 (ロ) 人文の觀察。 (ハ) 天文現象の觀察等。
- ロ、地理の生活化と生活の地理的理解を圖ること。
- ハ、具體化をはかるため十分勞作化をなすこと。
- (イ) 資料の蒐集及製作等をなすこと。 (ロ) 模型地圖の製作、統計の圖表化をなすこと。
- ニ、各種の讀圖力を練磨し白地圖による描圖作業を重視すること。
- ホ、他の科目との聯絡を圖り勞作化につとむること。

二、理科 (科學的精神の徹底)

1、算數

- イ、教材、問題を生活化、郷土化をなし實驗的に研究せしめること。
- ロ、作業化をはかり實驗、實測を重視して常に具體化をなすこと。
- ハ、手工作業、勤勞作業を連絡し結合して體驗せしめること。
- ニ、作業による(實測、現象等のグラフ)數量的生活を指導し、讀圖、作圖の機會を多くすること。
- ホ、珠算の技能と其の練習を重視し、暗算、概算に習熟せしめること。
- ヘ、實際化、具體化、生活化、作業化をはかることに努め、他科目との聯絡、資料の調査、蒐集、製作をなすこと。
- ト、作業による算術學習は左の過程を考慮すること。

- (イ) 問題直觀。 (ロ) 方法構案(個人、共同、能力別等) (ハ) 作業(實驗、實習、實測等)
- (ニ) 問題構成。 (ホ) 解決と鍊成。 (ヘ) 精査討究。

2、理科

- イ、觀察、實驗作業を重視し、觀察を精密にし、實驗を重んずること。
- ロ、資料の蒐集調査、採集、培養、飼育、標本作製等身體的勞作を多くすること。
- ハ、理科的日用品の觀察及繼續的觀察調査をなすこと。(記録、綴り方等の材料とし理科的訓練をなすこと)
- ニ、虫眼鏡、顯微鏡等機械器具の使用方法に習熟せしめること。
- ホ、郷土的、具體的、實際的取扱ひを重視し、郷土調査と郷土中心の理科的生活を圖ること。
- ヘ、農業勞作、其他あらゆる科目と密接に協力をなすこと。

三、體鍊科(身心の鍛鍊)

1、武道

- イ、剛健敢爲滅私奉公の武道精神を修練すること。
- ロ、伸びくと正しく正々堂々たる精神、技の鍊成をなすこと。
- ハ、禮讓を以つてし規律を嚴にし武道的訓練を重んず。

2、體操

- イ、身心の訓練を重視しよりよき精神的教育を高調すること。
- ロ、團體的訓練により社會的精神を修練すること。
- ハ、他科目との聯絡を密にして取扱ふこと。

四、藝能科(技能及情操の陶冶)

1、音楽

- イ、教材は郷土に即し、兒童生活に近いものを選ぶこと。
- ロ、反復練習により曲想を味得鑑賞せしめると共に優秀なる農民音樂鑑賞に意を致すこと。
- ハ、高學年に於ては自作童謡或は詩に對する作曲練習をなさしむること。
- ニ、他科目との聯絡を圖り、季節的のものを選び指導すること。

2、習字

- イ、練習を重視し其の機會を多くすること。
- ロ、書は態を現はすの自覺を與へること。
- ハ、他科目と聯携して硬革、ペン習字の練習をなすこと。

3、圖畫

第五節 各科教育の勞作的取扱の要諦

イ、生活に即した題材をとり、寫生にあたりては觀察を充分指導すること。

(イ) 家庭生活題材—日用品、家庭作業、家庭の人々等。 (ロ) 學校生活題材。 (ハ) 作業園より。

(ニ) 社會諸相より—印象の深かつたもの。

ロ、圖案の作製、ポスターを重視すること。

ハ、美的資料の蒐集作業をなさしめること。

(イ) 平面的なるもの—廣告、レツテル、カット、ポスター等。 (ロ) 立體的なるもの—玩具、模型、手工品等。

ニ、魂を込めた作品を作り上げるにめ製作過程を重んずること。

ホ、各科目との聯絡を圖り生活の美的構成に努めること。

4、作 業 (手工)

イ、教材の選擇を適切ならしめて作業目的の徹底をはかること。

ロ、獨創的活動を喚起し、圖案、製圖等計畫的たること。

ハ、道徳的訓練を忘れず、必ず最後まで完成せしめること。

ニ、共同作業的作品により責任と協同精神の涵養をはかること。

ホ、専心事にあたらしめ、注意集中、勤勉、清潔、秩序等の訓練を心掛けること。

ヘ、手の仕事は結局精神の仕事たる事を覺らしめること。

ト、製作品に魂を打ち込んで作り上げること。

チ、他の科目との聯絡を緊密にし、勞作學習の綜合的なる取扱ひをなすこと。

5、裁 縫

イ、地方的、趣味的取扱ひをなし創造的、工夫的なること。

ロ、作法的、訓練的效果を大ならしむると共に作業による人間の教育を重視すること。

ハ、藝術的、經濟的、實用的陶冶を行ふこと。

ニ、家庭作業にまで延長すること。

ホ、魂をこめて作り上げること。

ヘ、各科目との聯絡を重視すること。

6、家 事

イ、實習に重きをおき指導は地方化をなすこと。

ロ、節約、利用、秩序、清潔の習慣を訓練すること。

ハ、他科目との聯絡を密になすこと。

五、實 業 (職業に關する基礎的教養)

1、農 業 (第九節参照)
備考 (教科に於ける勞作的取扱ひに對しては第三章教授經營の作業取扱ひの具體案参照のこと)

第六節 課外作業

一、兒 童 各 係

(一) 目的

- 1、本校訓練方針並勞務教育綱領の徹底を期するため児童の各係をおき自治協同の精神を養ふ。
- 2、各作業並各係の緊密なる聯絡をはかり相互助力により責任、愛校の精神を養ふ。
- 3、清潔、整頓の良習慣を養ひ、規律、節制の徳を啓培す。
- 4、一切の處理を重んじ終末整理完結を尊重して物事のくまりを正しく行はしむ。

(二) 方法

- 1、毎日校内校外の巡視をなして各係の任務遂行をはかること。
- 2、各係は相互に連絡をとり全校統一的活動を行ふこと。
- 3、各係は係教師の指示並協議により訓練の徹底をはかること。
- 4、處理を重んじ常に反省してよりよき工夫をなすこと。
- 5、各係の自發活動を重んじたへす獎勵をなすこと。

(三) 兒童各係作業一覽表

目的 自治協同、責任遂行、勤勞愛好、清潔整頓、愛校精神の涵養

係	人員	配當區域	任務	處理	指導者
看護番當番	女二 男四	講堂及北校舎 中央校舎 南校舎 舎外	1、係は各受持區域の看護につとめ、自治會決定事項、係教師の指示、週是の遂行につとむ 2、自發的に示範し、他を指導す 3、毎朝係教師の指示を受くものとす	毎日の状況を日記に記入して係教師に提出す	當番教師 訓練主任

係	人員	配當區域	任務	處理	指導者
掃除係	女二 男二	同	1、各掃除用具の整理整頓並破損状況の調査をなす 2、毎週土曜日に状況を係教師に報告す	1、毎日の状況を日記に記入す 2、土曜日に成績記入して提出す	當番教師 訓練主任
湯呑具係	女二	井戸 湯呑場	1、各級藥罐の後始末並清潔に注意をなす 2、井戸端水飲用具の整理整頓をなす	放課後整頓して係に報告をなす	係教師
兒童傘係	男四	各級配當	1、各級配當傘の始末状況を調査して不足分を擔任教師に報告す 2、毎月一回各級配當原簿に照合し不足分を係教師に報告す	不足傘番號又は擔當氏名を報告す	傘係教師
掲示及裝飾係	女二 男四	講堂及北校舎 中央校舎 南校舎	1、係教師の指示をうけ本校兒童成績、參考資料並新聞記事等を掲示す 2、學級並所定の場所の裝飾花、室内裝飾用鉢植のとりかへをなす	1、状況を係に報告す 2、盆裁は土曜日外に出して撒水す	係教師 看護當番
下駄傘棚係	女一 男二	北校舎 中央校舎 南校舎	1、各受持區域の整頓整理をなす下駄草履は小鼻緒前へ靴は靴先を後方内側にして入れる 2、放課後は履物、傘の残らざるやう	1、整理状況を係教師へ朝注意す 2、放課後巡視型	看護當番

係室動武	係室溫	係店賣	係接應	係室生衛	係具用操體
女二 武 動 室	女二 溫 室	女二 供 給 室	女二 應 接 室	女二 衛 生 室	男二 用 擔 當 具 區 室域
1、學用品の販賣をなし、賣上計算をなして係教師に放課後引 2、不足品の調査をなして補給をなすべく係教師に報告す 2、英靈命日には特に児童よりの供物を供へて弔魂慰靈をなす	1、係教師の指示により撒水、窓の開閉等をなす 2、温度を測定し係に報告すると共に温室日記を記入す	1、係教師の指示により撤水、窓の開閉等をなす 2、温度を測定し係に報告すると共に温室日記を記入す	1、來賓の受付並案内をなす 2、係教師の指示により接待並後始末をなす	1、所定の衛生材料、用具の始末に注意すると共に室内の裝飾 に注意す 2、係教師の指示によつて衛生作業及處理をなす	1、各體操用具の始末の状況、用具の手入れをなす 2、修理箇所の調査をなして報告す
1、放課後十分整 理をなしおくこ と、鍵は係教師に 引續ぐこと	1、作業完了後は 係に報告す 2、室内温度日誌 記入	1、放課後十分整 理をなしおくこ と、鍵は係教師に 引續ぐこと	後始末後に係に報 告	1、藥品材料の不 足報告 2、患者簿記入	1、整理後は係に 報告 2、修理點の報告
係教師	農業主任	主供給 任部	接待係	衛生主任	運動主任

備考

- 1、毎週土曜日放課後訓練係並看護當番は其の實踐狀況を檢し所定の表に記入し其の結果を明示す
- 2、看護當番又は訓練係は前週狀況を朝會に報告し児童の反省を促す
- 3、各係は一週間交代とし土曜日放課後反省會を開く

二、美化 作 業

(一) 目 的

- 1、勤勞愛好の精神を養ひ魂のこもりたる活動を體得せしむ。(默働—靜の緊張の中に)
- 2、公共物を愛し協同一致以て奉仕せんとするの精神を養ふ。
- 3、萬有生命觀の敬虔なる心情を陶冶す。
- 4、合理的活動により責任を重んじ有終美を發揮せしむ。
- 5、清潔、整頓の美風を養ふ。

(二) 方 法

- 1、魂を込め、作業を通して努力の具現をはかること。
- 2、師弟共同の作業により無言精進の行をなすこと。
- 3、作業分擔區域を定め全體的作業の分擔をなさしむること。
- 4、用水、廢物の更生を重んじこれを生かして用ふる工夫をなさしむること。
- 5、敏捷、確實、合理的活動をなさしむること。

(三) 處 理

- 1、掃除後の検閲と反省を自發的に行はしむ。
- 2、一週間成績の標記を記入す。
- 3、各級に於いて反省と指導をなす。
- 4、大掃除後の結果を朝禮に公表す。
- 5、作業中適宜指導訓話(或は朗誦)をなす。

(四) 美化作業一覽表

校		舎		目的	實施場所	實施概要	要	期日	擔當者	指導者	備考	
十分間の朝作業として眞剣敏捷に小石、草、木の葉等を拾ひ全校一齊に行じて、すがすがしき気分と眞剣なる態度を起さしむ		1、机を一方に寄せ叮嚀に掃き固くしぼつた雑巾にて入念に拭き其後をから拭す 2、机を正しく整頓し、硝子、棧、蜘蛛の巣等落ちどなくし窓を閉め、用具の始末をなし指導者の點檢をうける 3、講堂は特にから拭をなす		清潔整頓、共同一致、責任遂行、社會奉仕、勤勞愛好の精神涵養	朝禮前休み時間に於て教室内の整理整頓をなし必要に應じて掃除をなす	實施概要	要	朝禮前日	兒配 童當	主學 任級	日記記入	責任、共同一致 光るまで行ず (實施につき ては訓練の 部参照)
1、各擔當區域につき蘆芥、木の葉をひろひ、除草をなし、石瓦等を整頓し、庭木のくもの巣をとる 2、用具は一定の場所に整頓し指導者の點檢をうける 3、花園當番は水をやり土のしまりたる時は中耕をなす 4、畜舎當番は指導者の指揮をうけて給餌給糞をなす		1、訓練主任は朝禮に主眼を明示し全般的整備の上特に念を入れしめる 2、掃除後を巡視し全校的採點をなして成績を記入し翌朝禮に指導をなす		期日	擔當者	指導者	備考	毎週日及土曜後日	全校三年又 以上兒配 童當	主學 任級	巡視は掃除の有様、結果の徹底状況を調べる	塵芥の利用 堆肥用 土物用 金木用 紙屑類 日記記入
1、登校と同時に校庭、花園、運動場に撒水をなし、植物愛護並美化作業の便を圖る 2、足洗場の水をくみ、登校兒童の足洗ひに便ならしむ 3、合圖と共に全校一齊に擔當區域に集合し、床腰板、柱、戸等を主として拭き三十分行作業をなし合圖と共に學級別に整理運動をなし合圖と共に全校一齊に校庭に集合し、擔當區の木の葉、石拾ひ除草をなし合圖にて開散す		1、合圖と共に全校一齊に擔當區域に集合し、床腰板、柱、戸等を主として拭き三十分行作業をなし合圖と共に學級別に整理運動をなし合圖と共に全校一齊に校庭に集合し、擔當區の木の葉、石拾ひ除草をなし合圖にて開散す		期日	擔當者	指導者	備考	月二回	兒全 童當	主學 任級	非常訓練後に行ふ	非常訓練の場合に行ふ
雨天の場合には舎外擔當兒童は全員ガラス拭作業をなす、朝作業、放課後作業共に舎内作業を扶助す		雨天の場合には舎外擔當兒童は全員ガラス拭作業をなす、朝作業、放課後作業共に舎内作業を扶助す		期日	擔當者	指導者	備考	隨時	兒全 童當	主學 任級	雨天の場合に行ふ	雨天の場合に行ふ

業 作 内				特別	大 掃 除	舎 外
業 作 仕 奉				除 掃 別 特	除 掃 大	外 舎
業 拭 耐	作 舎 外	作 舎 内	作 撤 水	除 掃 別 特	除 掃 大	外 舎
業拭耐	作舎外	作舎内	作撤水	特別	大掃除	舎外
雨天の場合には舎外擔當兒童は全員ガラス拭作業をなす、朝作業、放課後作業共に舎内作業を扶助す	合圖と共に全校一齊に校庭に集合し、擔當區の木の葉、石拾ひ除草をなし合圖にて開散す	合圖と共に全校一齊に擔當區域に集合し、床腰板、柱、戸等を主として拭き三十分行作業をなし合圖と共に學級別に整理運動をなし合圖と共に全校一齊に校庭に集合し、擔當區の木の葉、石拾ひ除草をなし合圖にて開散す	1、登校と同時に校庭、花園、運動場に撒水をなし、植物愛護並美化作業の便を圖る 2、足洗場の水をくみ、登校兒童の足洗ひに便ならしむ	1、搬入物、搬出物を整理しその適否を檢し大掃除を行ふ 2、學期始の用具、机等の受取、學期末の返却 3、押入、物置等の整理整頓と規定場所に規定のものを置く 4、ストロブ、配置後並取片附後の整理整頓	1、訓練主任は朝禮に主眼を明示し全般的整備の上特に念を入れしめる 2、掃除後を巡視し全校的採點をなして成績を記入し翌朝禮に指導をなす	1、各擔當區域につき蘆芥、木の葉をひろひ、除草をなし、石瓦等を整頓し、庭木のくもの巣をとる 2、用具は一定の場所に整頓し指導者の點檢をうける 3、花園當番は水をやり土のしまりたる時は中耕をなす 4、畜舎當番は指導者の指揮をうけて給餌給糞をなす
隨時	月二回	月二回	第一、二學期毎週及放課後	學期始終必要時	毎週日及土曜後日	毎週後日
兒擔舍 童當外	兒全 童當	上三年 全員以	自治團 落	兒配 童當 (三年以上)	全校三年又 以上兒配 童當	兒配 童當
主擔 任當	主學 任級	主學 任級	主擔 任當	主擔 任當	主學 任級	主擔 任當
雨天の場合に行ふ	非常訓練後に行ふ	非常訓練の場合に行ふ	自治團の協力一 致の奉仕	自治團の協力一 致の奉仕	非常訓練後に行ふ	非常訓練の場合に行ふ

業 作 仕 奉 外 校					
忠魂碑 清掃	神社寺 院境内 清掃	河川道 路掃除 及小修 理	夜 巡 回	耕地愛 護作業	戦死者 墓参及 清掃
1、朝、放課後の二回境内清掃をなす 参拜後着手し、終了後拜禮を行ふ 2、碑前の供華の取換をなす(随時)	1、集合して参拜し、除草、塵拾ひ、石瓦硝子等の整頓をなし全境内の清掃をなし参拜後開散 2、各字にて購入をせられし用具を叮嚀に取扱ひ整理整頓して規定の場所におくこと	1、道路掃除並手入は村内全道路の掃除及修理、汚物の處理をなす 2、川渡は學年に應じ部落別に行ひ、川岸修理、汚物の整理をなす	火の用心巡りを行ふ 夕刻食事後	1、擔當路傍畦畔の草刈をなし、一定の所に集め堆肥又は各字の買入れに應ず 2、作業後の状況を巡視して表彰をなす	1、戦死者の墓に参拜し其の清掃をなす 2、清掃後供華をなし拜禮をなして開散す
毎 朝 後 放	各 日 一 回 各 社 神 寺	道 日 路 每 回 川 月	毎 夜	週 間 中	月 一 回 七 日
配 當 兒 童	部 落 自 治 團 童	自 治 團 子 團 女 子 自 治 團 男	自 治 團 兒 童	自 治 團 兒 童 全 員	自 治 團 兒 童
擔 當 主 任	自 治 團 長	自 治 團 長	團 長 住 任 師	團 長 部 落 主 任	團 長 及 主 任
簿 目 を 正 し く つ け る こ と	校 外 自 治 團	本 校 道 路 愛 護 會 規 約 に よ る	責 任 と 奉 仕 を 重 ん じ て	農 會、 各 區 長 青 年 學 校 と 聯 絡	神 社、 寺 院 奉 仕 後 に 行 ふ

備 考

- 1、製作し得られる用具は手工、家事、裁縫と連絡して製作す。
- 2、用具の修理簡單なるものは兒童の手に依つて修理せしむ。
- 3、動物舎の掃除は各動物に適したる方法によつてなせしめ、糞糞は肥料として搬出す。
- 4、指導者は常に兒童を悦んで仕事に従事せしめ、作業の前後又は作業中に作業精神を徹底せしむべき話合ひをなすを以て作業指導の要諦とす。

三、作業日の持設

(一) 目的

勤勞愛好の念を養ひ、自發的に作業を行はしめ、規律、協同、感謝奉仕の精神を涵養す。

(二) 期 日

- 1、毎月二十日 午後二時より三時迄(全校作業)
二十日は尊徳日と稱し此の日を全校一齊の作業日と定め二宮尊徳先生の徳を敬仰す。
- 2、毎週 二時間 (學級作業日)
擔當學級園作業を行ふ。

(三) 方 法

- 1、全校並各級に分擔せられたる行事をなすと共に、高

第六節 課 外 作 業

(四) 處 理

- 1、各擔當別に作業の状況を反省し其の指導をなす。
- 2、全校作業は全員校庭に集合し、二宮尊徳先生の講話後指示せられたる作業に従事すること。
- 3、作業日特別の行事並學級作業の行事は教務及作業係之を定むること。
- 4、作業行事及準備用具は計畫表を各級に掲示して兒童に熟知せしむること。
- 5、作業は黙働を本體とし、作業目的、方法を熟知せしめて自發的に工夫しつゝ作業せしむること。

- 2、全體的反省の結果は朝會に報告し獎勵をなす。
- 3、擔當教師又は兒童は作業日誌に狀況結果を記入す。

四、清 整 作 業

(一) 目 的

- 1、手工の發展として魂のこもりたる作業をなさしむ。
- 2、勤勞を愛好するの美風を養ふ。
- 3、實用的修繕修繕の工夫をなさしめ、器物尊重の念を培ふ。
- 4、共同作業を重んじ協同一致、責任觀念の涵養をなす
- 5、趣味性、廢物利用、經濟的觀念の啓培に努む。
- 6、忍耐力と永續的努力の意志を鍛鍊す。
- 7、愛校、愛郷心を啓發し奉仕態度を養ふ。

(二) 方 法

- 1、兒童の能力に應じて各自最善を盡さしむること。
- 2、なるべく筋肉を勞する作業をなさしむること。
- 3、個人作業より共同作業へ發展せしむること。

(三) 處 理

- 4、兒童自身に出來得るものはなるべく工夫せしめてなさしむ。
- 5、師弟協同の作業を行ふこと。
- 6、自發的活動を促し積極的に行はしめ獎勵と力づけをたへすこと。
- 7、各係相互の聯絡を緊密になし、全校一體觀の活動をなさしむこと。
- 8、社會奉仕への發展をはかること。

(四) 清 整 作 業 一 覽 表

- 1、修繕狀況、箇所及氏名を清整日誌に記入せしむ。
- 2、作業後反省指導して修理完成の甘味を體得せしむ。

目 的	作 業 事 項	作 業 學 年	期 日	指 導 者	作 業 上 の 注 意 及 指 導 概 況
勤勞愛好、節約利用、社會奉仕、愛校愛郷の精神涵養	腰板修理	高二男	月一回	訓練主任	なるべく自發的に主任の手を経ずして行ふ、材料は主任に申出をなす 兩便所の下駄、兒童の下駄鼻緒すげ、裏打、修理、整理、整頓をなす 圖書臺帳と照合す 臺帳と照合し毎土曜日整頓す 修理は一齊に期日を定めて行ふ 本校規定箇所、物品の整理の注意
	下駄箱修理	高二男	月一回	同	
校舎一般部	下駄修理	高二女	月一回	同	なるべく自發的に主任の手を経ずして行ふ、材料は主任に申出をなす 兩便所の下駄、兒童の下駄鼻緒すげ、裏打、修理、整理、整頓をなす 圖書臺帳と照合す 臺帳と照合し毎土曜日整頓す 修理は一齊に期日を定めて行ふ 本校規定箇所、物品の整理の注意
	掛圖用具修理	高二女	月一回	同	
教室部	圖書整理	高一女	月一回	教授主任	なるべく自發的に主任の手を経ずして行ふ、材料は主任に申出をなす 兩便所の下駄、兒童の下駄鼻緒すげ、裏打、修理、整理、整頓をなす 圖書臺帳と照合す 臺帳と照合し毎土曜日整頓す 修理は一齊に期日を定めて行ふ 本校規定箇所、物品の整理の注意
	理科標本整理	高一女	月一回	圖書主任	
機腰掛修理	ミザラ修理	高二男	月一回	訓練主任	なるべく自發的に主任の手を経ずして行ふ、材料は主任に申出をなす 兩便所の下駄、兒童の下駄鼻緒すげ、裏打、修理、整理、整頓をなす 圖書臺帳と照合す 臺帳と照合し毎土曜日整頓す 修理は一齊に期日を定めて行ふ 本校規定箇所、物品の整理の注意
	椅子掛修理	高二男	月一回	同	
掃除用具に関するもの	カーテン修理	高二女	随時	同	なるべく自發的に主任の手を経ずして行ふ、材料は主任に申出をなす 兩便所の下駄、兒童の下駄鼻緒すげ、裏打、修理、整理、整頓をなす 圖書臺帳と照合す 臺帳と照合し毎土曜日整頓す 修理は一齊に期日を定めて行ふ 本校規定箇所、物品の整理の注意
	ストーブ設備	高二女	随時	同	
各部用具整理	各用具整理	各學級	週一回	學級主任	なるべく自發的に主任の手を経ずして行ふ、材料は主任に申出をなす 兩便所の下駄、兒童の下駄鼻緒すげ、裏打、修理、整理、整頓をなす 圖書臺帳と照合す 臺帳と照合し毎土曜日整頓す 修理は一齊に期日を定めて行ふ 本校規定箇所、物品の整理の注意
	掃除用具に関するもの	各學級	週一回	學級主任	
1、ベケツ	高 二 男	隨 時	作業用具主任	作業用具主任は學級主任よりの報告を受け、用具の破損又は不足分の補充を行ひ、修理可能なるものは兒童をして自治的に作業せしむ	
2、ホキ	高 二 男	同	學級主任		
3、塵取	高 二 男	同	同		

(四) 最近實施の重なる作業

- 1、川崎運動場水害土砂運搬と復舊作業
- イ、九月八日以降四日間午後全校児童職員作業着手

(平均作業時間二時間)

- ロ、各級配當區域内の擔當作業

四年以上男子—土砂掘上げ、女子—土砂運び

(作業時間三時間)

尋三以下—石拾ひ、草むしり(作業時間一時間)

- ハ、作業着手前實地調査—各學年男女別適宜配當

ニ、作業日數 四日間

2、動物飼育舎建設作業

- イ、師弟協同して設計を立て之を建設す。

ロ、高等科男子分擔して行ふ。

3、石垣工事作業

- イ、校地内にありし不用石を用ひて運動場並花園周圍

に石垣を作る。

ロ、高等科児童を日割配當により着手す。

ハ、作業日數 一週間

4、土砂及クリ石運搬作業

- イ、土砂及クリ石を石垣の内側に入れるため川崎より運搬をなす。

ロ、師弟協同作業にて行ふ。

ハ、四年以上男女別にて約一時間配當にて行ふ。

5、温室基礎工事作業

イ、コンクリート用砂及クリ石の運搬をなす。

ロ、コンクリート基礎掘割並クリ石つきをなす。

ハ、コンクリート作業一切を行ふ。

ニ、高等科男子並職員各配當日時により着手。

ホ、作業日數 十日間

6、温室用薬園作業

イ、材料一切は自給材料を用ふ。

ロ、高二男児童四時間にて完成す。

7、開墾作業

イ、農場擴張のため枯死せる桑園の開墾をなす。

ロ、開墾着手児童 五年以上男子日時配當。

ハ、作業日數 十日間。

ニ、面積 一段二畝歩(第二農場蔬菜園及種苗床)

8、地均し作業

イ、開墾後の畑地均しを行ひ雜草を除く。

ロ、三年以上女子配當日時又は放課後行ふ。

ハ、作業日數 七日間

備考 前年度開墾地面積一段八畝歩(第一農場現在

蔬菜園及試芥園)

六、耕地愛護

(二)(一) 期日 八月末耕地愛護週間中

方法

イ、各團別尋三以上の児童参加すること。

ロ、本校にて配當したる場所の除草並草刈整理をなすこと。

ハ、部落主任は出張して共働指導すること。

ニ、集合開散は各字別神社にて行ふこと。

(三) 處 理

イ、刈草は堆肥として本校農場肥料となす。

ロ、各字區長又は個人の買入れに應ず。

ハ、終了後實施状況を巡回調査して表彰をなす。

ニ、賣上金は國防資金献納又は其の他の献金をなす。

(備考 訓練經營 参照)

七、堆肥増産作業

(一) 目的

資源愛護、廢品回收利用、地力増進の積極的態度を養成し其の精神を鍊成す。

(二) 方法

- 1、塵捨場施設（塵芥の選擇區別をなして堆肥用のものは之を利用す。）
- 2、落葉採集（神社、寺院の境内清掃並、川崎運動場落

葉採集をなす。）

- 3、一齊草刈（耕地愛護或は川崎運動場並、飛行場の全校一齊草刈をなす。）

(三) 處 理

- 1、堆肥場へ運搬をなす。
- 2、堆肥積込法の指導をなす。
- 3、施用並土地改良の指導をなす。

第七節 家庭作業

一、家庭 實習

家庭農業（一坪農業）

- イ、尋五以上の各家庭にて實施す。
- ロ、實習地には本校より一定の種子並苗を配布し年一回品評會開催。

二、藥 草 採 取

- イ、夏期全校兒童によつて採取し各調製をなす。

- ロ、本年度採取總額 二百貫 二十捆。

- ハ、荷造りは一切高等科男子によつて行ふ。

- ニ、村農會と聯絡し販賣を委託す。

三、家・兔 飼 育

- イ、兒童一家一番の飼育をなさしむ。

- ロ、青年團、青年學校と聯絡して子兔の配給をうく。

- ハ、飼育箱は手工作業と聯絡して作製す。

第八節 自治團作業

一、各字 共同農場

(一) 目的

自治的に農場經營をなさしめ、共同、勤勞愛好の精神を養ひ、土に親しみ、土を愛し、かねて販賣に對する禮儀並經濟的思想を養ふ。

(二) 作 業

尋五以上男女參加。計畫は主任及團長。

(三) 收穫物販賣 各兒童販賣に從事し収入は部落兒童の共同費用に充つ。

(四) 南船木農園實狀(實例)

- 1、畑地面積 五畝歩 2、昭和十四年十二月末 現在收入 六十圓〇八錢

- 3、行 事 一、旅行 前日豫備教授並諸注意 二、桃山御陵參拜 經費 五十八圓五十八錢

ハ、參加兒童人員 六十名 引率者 六名

4、處 理 感想文の作製

5、備 考

- イ、前年度旅行は京都へ武運長久祈願參拜旅行 二、參加人員 五十九名 三、經費 二十一圓五十三錢
- ロ、神社寺院境内美化 3、火の用心廻り(昭和十四年一月表彰さる)

4、道路愛護昭和十五年二月表彰さる

5、其の他

第九節 農業作業

一、目的方針

- 1、尊農愛土の精神を作興す
- 2、心身の努力的活動の修練を重ね勤勞愛好の精神を涵養す
- 3、協同勞作を重んじ社會的國家的協同精神を涵養す
- 4、生産的經濟的精神を確立す

二、施設

(一) 學校作業

種類	實習並作業學年	實習並作業内容並經營大要
1、水田作業 (面積二、五反)	高等科	地力の増進、水稻栽培、調製法の大要を知らしむると共に各種試験比較繼續觀察研究を爲す 普通栽培區(耕種改善規準) 増收栽培 試驗區(各種試験比較研究)
(1) 水稻栽培		一反 一反 〇、五反

(2) 裏作栽培

2、蔬菜園作業

(面積二、五反)

(1) 第一蔬菜園

(面積一、三反)

昭和十三年老廢桑園借地開墾

全校

高等科

休閑田の利用並に之が裏作栽培の知識技能を授く

一號田 紫雲英……………菜種……………麥

(一年目) (二年目) (三年目)

二號田 菜種……………紫雲英……………休閑

(一年目) (二年目) (三年目)

主要作物蔬菜の栽培法並作付經營の方法要領を體得せしむ

(イ) 區分

見本區(陸稻、棉、ソバ
其他特殊蔬菜作物)

示範指導區 二畝歩

兒童擔當區 九畝歩

(ロ) 兒童擔當區作付表

一號園 玉葱 二、五畝歩

馬鈴薯 胡瓜 葱

二號園 麥 二畝歩

玉葱 西瓜 大根

三號園 甘藍 二畝歩

麥 南瓜 大根

四號園 甘藍 二、五畝歩

茄子 燕苔 白菜

自然愛好園藝趣味の養成を圖る爲興味的蔬菜花卉栽培を主として實施す

(2) 第二蔬菜園並苗圃

面積一、二反

昭和十四年老廢桑園一反歩借地開墾

尋常科

1、農産加工 (製繻機、製打機)	2、養蠶飼育	3、果樹園作業 (面積 六畝歩、昭和十三年借地設置)	4、桑園 (面積 五畝歩、昭和十二年新設)	5、花園作業 (校地利用花園)	6、一人一鉢花卉其他
高等科	高等科	高等科	高等科	第三以上	高等科以上

一號園 菜種—大豆、體菜、草花……………二、四畝
 二號園 菜種—南瓜—大根、燕青……………二、四畝
 三號園 水菜—馬鈴薯—菜豆—大根……………二、四畝
 四號園 水菜—甘藷—大根……………二、四畝
 五號園 大麥—茄子—大根……………二、四畝
 果樹(柿、梨、李、梅)の剪定整枝病虫害驅除其他手入法の概要を知らしむ
 柿、富有柿、李、フォームサン、
 梨、長十郎
 間作 大豆—菜種育苗—菜種
 (中生赤莢)
 仕立法、肥培管理の概要並に綠肥間作栽培の方法を知らしむ
 桑樹、根刈、赤市、大葉早生、改良鼠返
 間作 ザードウイッケン、青刈大豆
 校地空地を利用し花卉趣味の養成を圖ると共に校地の美化、愛校精神の涵養に資す
 裝飾花壇 (高學年)
 切花花壇 (中學年)
 高等科女兒 菊一人一鉢
 等五、六兒 普通鉢植花卉

7、温室温床作業 (温室 温床)	8、動物飼育	9、養蠶飼育	10、農業土木	11、農産加工 (製繻機、製打機)
高等科	高等科	高等科	全校	高等科

(一學級 一五鉢)
 温室 サイネリア、プリムラ、ペコニア、カラヂユーム其他温室花卉及メロン
 温床 夏作蔬菜育苗(胡瓜、南瓜、トマト、茄子)
 農家副業としての家畜養蠶の飼養管理法を知らしむ
 山羊 二頭
 養兔 (種畜繁殖用) 一五四
 養鶏 (白レグ) 二〇羽
 飼養管理共同販賣出荷の概要を體得せしむ
 養蠶夏置 各二ノ〇g飼育
 校地修理構築開墾、コンクリー作業
 本年に於て實施せる主なるもの
 温室八坪の穴掘、掘上げの土の低地運搬花壇設置、農場肥壺構築、穴掘温室、並農場肥壺コンクリー建設
 開墾、(老廢桑園二反歩開墾八月休暇中)
 コンクリー作業砂礫採取(安曇川より)
 農加工技術の體得
 製繻 製打(機械使用)
 藁ホーキ、草履作り
 其他農加工

(二) 校外作業

種類	學年	實習並作業内容
1、一坪農業 (三五二坪) 2、藥草採取 蜈蚣驅除	零五以上 全校	(イ) 尋常科 馬鈴薯 大根 燕青 高等科 甘藍 玉葱 燕青 白菜 (ロ) 一八一坪以上の栽培(種子は配付) (イ) 藥草採取 休暇中家庭作業として全校兒童に之を課す 昭和十四年度実績 げんのしょうこ 一五〇貫 おぼこ 六〇貫 ちうやく 七〇貫 (ロ) 蜈蚣驅除 部落毎に擔任職員指導のものに實施 期間中午後一時より三時迄實施 村内全縣道の草刈 (イ) 部落毎に區域を決定し部落主任指導のもとに週間中毎早朝實施 (ロ) 刈草量(堆肥積込量) 北船木 二立坪 南船木 二立坪 川江島 四立坪 藤江 三立坪 今在家 一五立坪 横江濱 一立坪 部落毎に競賣賣上金國防献金 部落主任部落長指導のもとに實施 家畜家禽兎調査統計 水稻分布調査統計
3、耕地愛護週間作業	零三以上	
4、農業調査統計	零五以上	

(三) 農具設備

農具	備数	モッコ	二〇	水車	一
シヨベル	五				
ホーレーキ	三〇	施肥具	一一	製繩機	二
鋤	三	ホーク	三	製莖機	一
備中鋤	一〇	脱穀機	一	藥打機	一
平鋤	一〇	篩	一	植木鉢	一五〇〇
移植鋤	五〇	リヤカー	一	唐鉢	五

三、實施方法

- (一) 正課實習作業 (高等科農業)
- (二) 作業時の設定 (全學年一週二時)
 - 學校作業 學校一齊作業 當番作業
 - 全校作業 全校一齊作業
- (三) 職員作業 一週一回
- (四) 作業計畫 (事例別紙参照)
 - 週別作業計畫案 作業主任作製
 - 學級作業實施細案 學級主任作製

四、指導並取扱上の指標

心理的取扱の重視、創造的取扱の重視、自發的取扱の重視、鍛鍊的取扱の重視、過程尊重結果重視

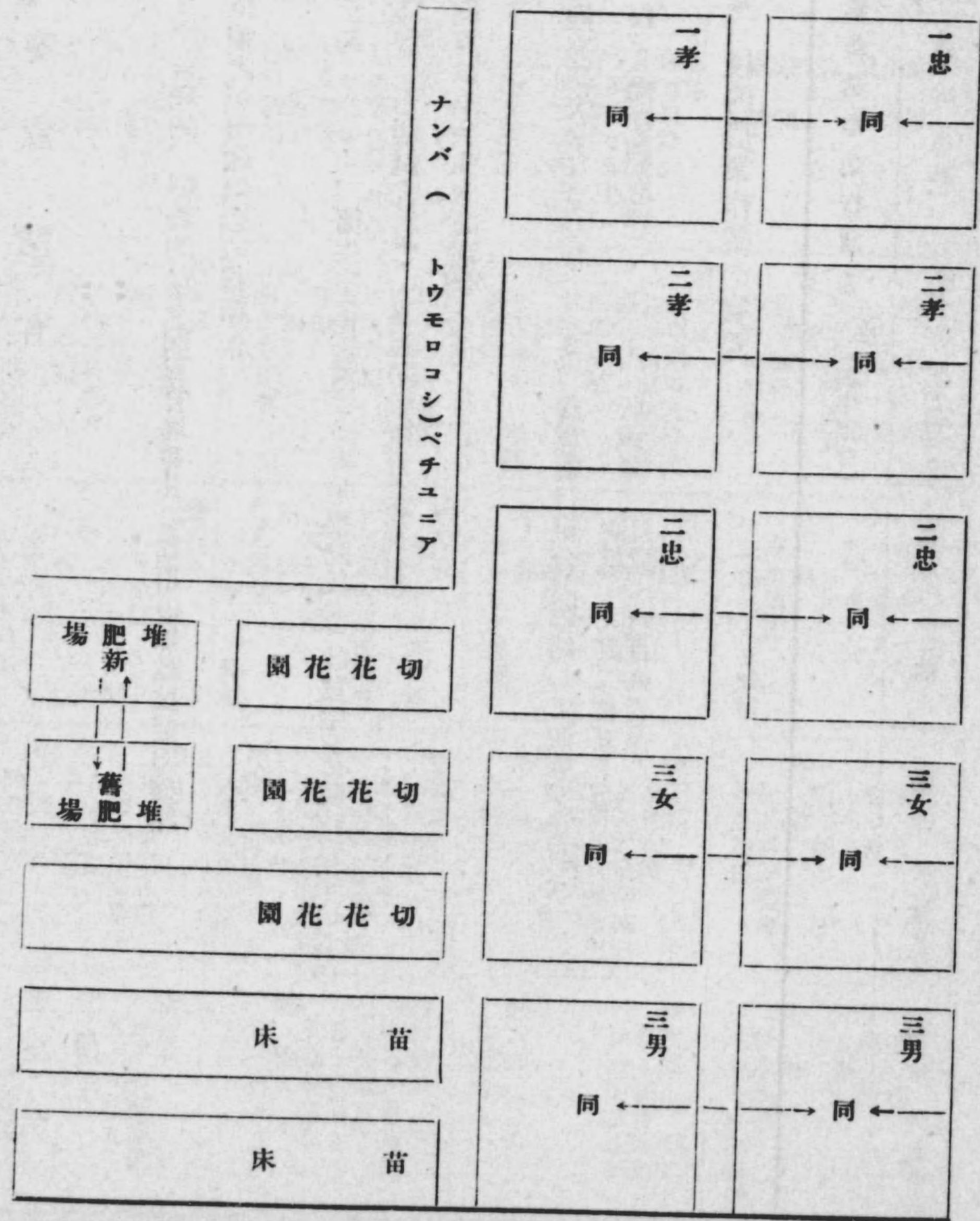
反三一 (場農一第)		
作秋 ← 作夏 ←		
場肥堆	(條三)葱本一深根	(條二)瓜胡白先都京
區本見 ーミヲ	(條二)蓼人時金	(條二)瓜胡白先都京
	(條二)蓼人時金	(條二)羽刈成節
區本見 麥小—稻陸 (種品各)	(條二)根大重宮頸白	號三和大
	(條二)根大重宮頸白	號三和大
	(條二)根大重宮頸白	瓜西黃
	(條二)根大重宮頸白	
區本見 麥大—棉 (種品各)	(條二)根大重宮頸白	(條一)皮黑生早
	(條二)根大重宮頸白	(條一)皮黑生早
	(條二)根大重宮頸白	(條一)座菊
	(條二)根大重宮頸白	
區本見 種菜—苗種菜—粟 (種品各)	(條二)蕪木万	(條二)子茄科山
	(條二)蕪木万	(條二)ドーヤチツリフ
	(條二)菜白都京	(條二)ア—ログ—マ
	(條二)蕪院護聖	

場農(科等高)校學小

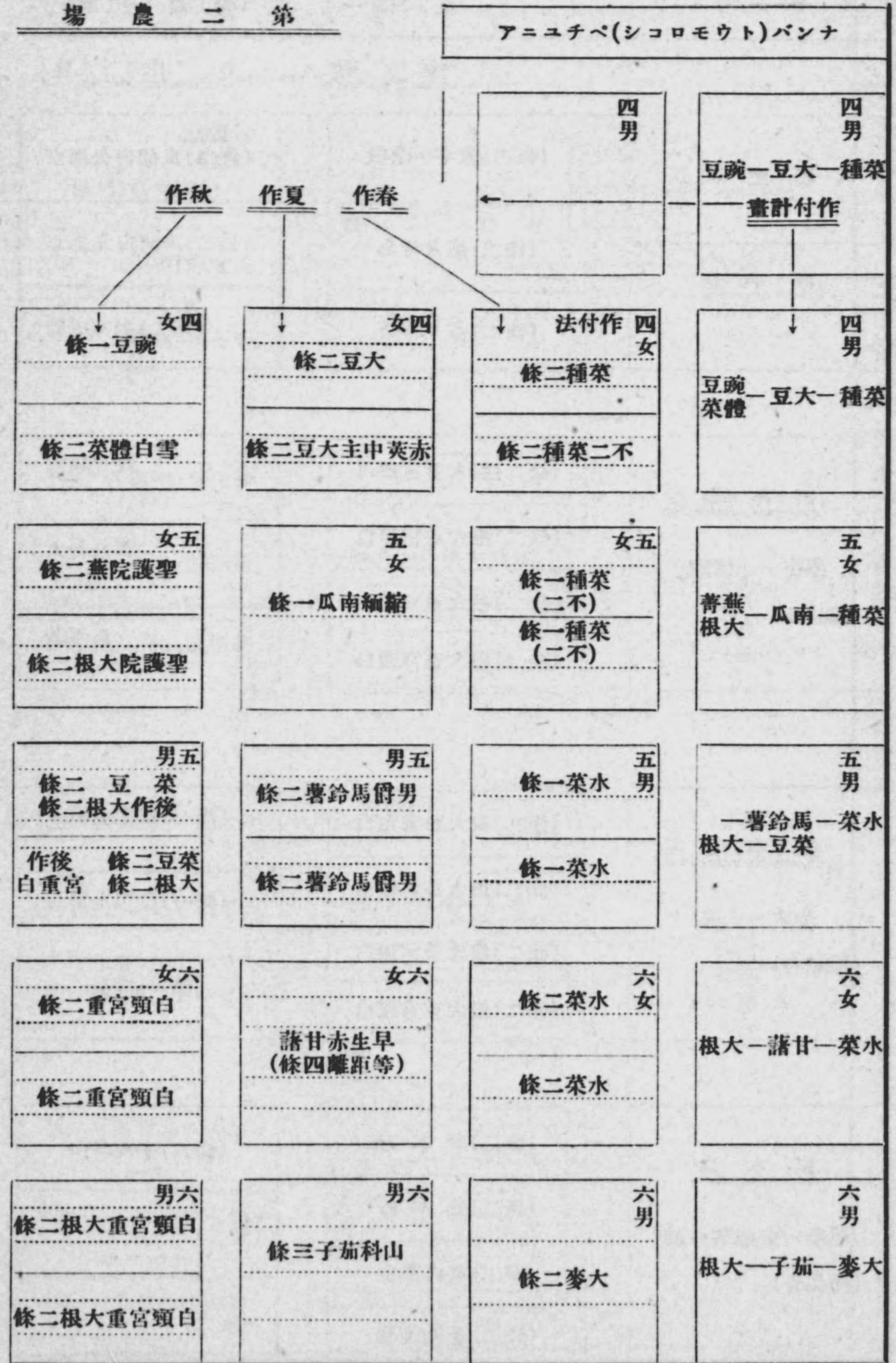
作春 ← 畫計付作		
法付作 (條三)蓼男薯鈴馬		區 範 示 → 後前 夏作 作收 ヨ 穫
(條四)葱玉黃		(條四)葱玉黃
(條二各側兩)葱玉黃		區 範 示 → 後前 夏作 作收 ヨ 穫
(上 同)葱玉黃		(上 同)葱玉黃
(上 同)葱玉黃		(上 同)葱玉黃
(條一)ンヨシツセクサ		區 範 示 → 後前 夏作 作收 ヨ 穫
(條一)ンヨシツセクサ		(條一)ンヨシツセクサ
(條一)ンヨシツセクサ		(條一)ンヨシツセクサ
(條一)藍甘生中府野 ↓ 央中正訂		壺 肥
(條一)藍甘生中府野 ↓ 央中正訂		(條一)藍甘生中府野 ↓ 央中正訂
(條一)藍甘生中府野 ↓ 央中正訂		(條一)藍甘生中府野 ↓ 央中正訂

五、農場經營の實際

歩反二、一(床苗場農全並科常時)



場農二第



六、養蠶飼育

一、目的

- 1、養蠶趣味の養成
- 2、合理的、經濟的なる飼養管理並其の利用の知識技能の啓培
- 3、時局下に於ける繭の地位並之が増産の念の養成

二、方法

- 1、本年度飼育量 二〇グラム
- 2、衛生室(稚蠶室) 青年學校教室(壯蠶室)を臨時蠶室に當つ
- 3、春蠶種、一齡一回育(稚蠶) 土間飼(壯蠶) 夏蠶防乾紙育(稚壯蠶)
- 4、春蠶飼育は高男生夏蠶飼育は高女生を當番制とす

三、處理

- 1、他教科との聯絡を圖り觀察研究をなさしむ。
- 2、養蠶實行組合と聯絡して販賣を委託す。
- 3、眞綿製造實習をなさしむ。(同功繭のみ)
- 4、收繭量 春蠶 九貫二百五十匁
夏蠶 六貫九百匁

七、校内農業作業の實際

月	學年	(一) 尋常科學級農業作業行事表 (前半期分)
一	一	播種、除草、土肥、寄種、菜種、施肥
二	二	除草、菜種、施肥、水菜、收穫
三	三	除草、水菜大麥、土肥、收穫販賣
四	四	除草、菜種、施肥、三色スミレ播種
五	五	除草、菜種、施肥、整理
六	六	除草、大麥土入、施肥

月	七	六	五	四
播種區	大豆(草木)肥、トウモロコシ、花、菊、ベチユニア刈込	大豆、整理、菊、花	雜草根除去、トウモロコシ、肥、菊、ベチユニア間引	播種區、除草、トウモロコシ、寄種、菜種、土肥
播種區	南瓜、大豆、菜豆、支柱立	南瓜、大豆、菜豆、支柱立	雜草根除去、後作、南瓜、馬鈴薯、木未施	播種區、菜種、施肥、水菜
播種區	茄子、同、甘藷、菊、花	茄子、同、甘藷、菊、花	雜草根除去、備子、茄子、甘藷、三色スミレ播種	播種區、除草、水菜大麥、土入、收穫販賣
播種區	大豆、肥、トウモロコシ、花、菊、サレビヤ	大豆、肥、トウモロコシ、花、菊、サレビヤ	雜草根除去、菜種、倒伏、ルモノ、サレビヤ播種	播種區、除草、菜種、施肥
播種區	南瓜、大豆、菜豆、支柱立	南瓜、大豆、菜豆、支柱立	水菜、馬鈴薯、南瓜、甘藷、支柱立	播種區、除草、菜種、施肥、整理
播種區	茄子、同、甘藷、菊、花	茄子、同、甘藷、菊、花	雜草根除去、備子、茄子、甘藷、サレビヤ	播種區、除草、大麥土入

(二) 高等科農業實習行事表 (校内)

月	七	月	六	月	五	月	四	
水田	一、本 二、本 三、本 四、本 藥劑撒布	一、苗代 二、本 三、本 四、本 五、本 六、本 七、本 八、本 九、本 十、本 十一、本 十二、本	一、苗代 二、本 三、本 四、本 五、本 六、本 七、本 八、本 九、本 十、本 十一、本 十二、本	一、苗代 二、本 三、本 四、本 五、本 六、本 七、本 八、本 九、本 十、本 十一、本 十二、本	一、苗代 二、本 三、本 四、本 五、本 六、本 七、本 八、本 九、本 十、本 十一、本 十二、本	一、苗代 二、本 三、本 四、本 五、本 六、本 七、本 八、本 九、本 十、本 十一、本 十二、本	一、苗代 二、本 三、本 四、本 五、本 六、本 七、本 八、本 九、本 十、本 十一、本 十二、本	
蔬菜園	一、植付物、中耕除草 二、施肥並收穫管理 三、ラミイ刈取	一、西瓜、南瓜、茄子、胡瓜、トマト、茄子、玉葱、甘藍、麥收 二、中耕除草並施肥 三、馬鈴薯收穫	一、西瓜、南瓜、茄子、胡瓜、トマト、茄子、玉葱、甘藍、麥收 二、中耕除草並施肥 三、馬鈴薯收穫	一、西瓜、南瓜、茄子、胡瓜、トマト、茄子、玉葱、甘藍、麥收 二、中耕除草並施肥 三、馬鈴薯收穫	一、西瓜、南瓜、茄子、胡瓜、トマト、茄子、玉葱、甘藍、麥收 二、中耕除草並施肥 三、馬鈴薯收穫	一、西瓜、南瓜、茄子、胡瓜、トマト、茄子、玉葱、甘藍、麥收 二、中耕除草並施肥 三、馬鈴薯收穫	一、西瓜、南瓜、茄子、胡瓜、トマト、茄子、玉葱、甘藍、麥收 二、中耕除草並施肥 三、馬鈴薯收穫	
果樹園	一、果樹園 二、除草 三、摘桑	一、果樹園 二、夏季剪定並藥劑 三、大豆施肥並摘桑	一、果樹園 二、夏季剪定並藥劑 三、大豆施肥並摘桑	一、果樹園 二、夏季剪定並藥劑 三、大豆施肥並摘桑	一、果樹園 二、夏季剪定並藥劑 三、大豆施肥並摘桑	一、果樹園 二、夏季剪定並藥劑 三、大豆施肥並摘桑	一、果樹園 二、夏季剪定並藥劑 三、大豆施肥並摘桑	
溫室溫床	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室
其他	一、養蠶飼育 二、養蠶飼育並收穫 三、農場尋常科區播種 應接整理	一、養蠶飼育 二、養蠶飼育並收穫 三、農場尋常科區播種 應接整理	一、養蠶飼育 二、養蠶飼育並收穫 三、農場尋常科區播種 應接整理	一、養蠶飼育 二、養蠶飼育並收穫 三、農場尋常科區播種 應接整理	一、養蠶飼育 二、養蠶飼育並收穫 三、農場尋常科區播種 應接整理	一、養蠶飼育 二、養蠶飼育並收穫 三、農場尋常科區播種 應接整理	一、養蠶飼育 二、養蠶飼育並收穫 三、農場尋常科區播種 應接整理	

月	一	月	十	月	九	月	八	
水田	一、稻刈取、脱穀 二、藁納入 三、紫雲英撒布 四、初乾	一、畦畔草刈 二、稻架立	一、種拔 二、白穂拔 三、水車灌排水 四、紫雲英播種	一、水車灌排水及排水 二、種拔 三、畦畔草刈 四、虫取	一、種拔 二、白穂拔 三、水車灌排水 四、紫雲英播種	一、種拔 二、白穂拔 三、水車灌排水 四、紫雲英播種	一、種拔 二、白穂拔 三、水車灌排水 四、紫雲英播種	
蔬菜園	一、陸稻刈取 二、秋作蔬菜收穫並後地整理 三、玉葱其他定植	一、秋蔬菜間引中耕除草施肥病虫驅除 二、棉收穫開始 三、ラミイ刈取	一、夏蔬菜處分 二、大根、白菜、蕪播種 三、右間引施肥中耕除草 四、藥劑撒布	一、植付物收穫 二、施肥灌排水手入 三、胡瓜處分 四、葱、人参播種並植付	一、夏蔬菜處分 二、大根、白菜、蕪播種 三、右間引施肥中耕除草 四、藥劑撒布	一、夏蔬菜處分 二、大根、白菜、蕪播種 三、右間引施肥中耕除草 四、藥劑撒布	一、夏蔬菜處分 二、大根、白菜、蕪播種 三、右間引施肥中耕除草 四、藥劑撒布	
果樹園	一、果樹園 二、大豆後地整理 三、桑園 四、枝條結束	一、果樹園 二、間作菜種假植 三、桑園綠肥作物施肥	一、果樹園 二、梨收穫 三、間作菜種育苗 四、除草綠肥播種	一、果樹園 二、除草 三、摘桑	一、果樹園 二、除草 三、摘桑	一、果樹園 二、除草 三、摘桑	一、果樹園 二、除草 三、摘桑	
溫室溫床	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室	一、溫室 二、溫室 三、溫室 四、溫室 五、溫室 六、溫室 七、溫室 八、溫室 九、溫室 十、溫室 十一、溫室 十二、溫室
其他	一、甘藍假植 二、農場尋常科區間引 其他應接手入 三、菊花境拵	一、甘藍假植 二、農場尋常科區間引 其他應接手入 三、菊花境拵	一、甘藍假植 二、農場尋常科區間引 其他應接手入 三、菊花境拵	一、甘藍假植 二、農場尋常科區間引 其他應接手入 三、菊花境拵	一、甘藍假植 二、農場尋常科區間引 其他應接手入 三、菊花境拵	一、甘藍假植 二、農場尋常科區間引 其他應接手入 三、菊花境拵	一、甘藍假植 二、農場尋常科區間引 其他應接手入 三、菊花境拵	

考備	一 等		二 等		三 等		四 等		五 等	
	二時	一時	二時	一時	二時	一時	二時	一時	二時	一時
高二男温室コンクリート土工ハ工事ノ都合ニヨリ土曜日午後全時間ヲ之ニ充ツ	第一農場小石拾	第一農場小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾
	第一農場小石拾	第一農場小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾
	第一農場小石拾	第一農場小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾
	第一農場小石拾	第一農場小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾
	第一農場小石拾	第一農場小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾
	第一農場小石拾	第一農場小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾
	第一農場小石拾	第一農場小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾
	第一農場小石拾	第一農場小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾
	第一農場小石拾	第一農場小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾
	第一農場小石拾	第一農場小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾
	第一農場小石拾	第一農場小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾
第一農場小石拾	第一農場小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	第一農場全園ノ小石拾	

備 準	法 方 業 作	注意ニ並的目 事項	作業主任		校長		教務	
			作業主任	校 長	校 長	教 務		
コンクリート担用具 一揃(學校準備) 用水桶(學校準備)二 運搬用シヨベル 一五(個人準備) 棒杭(學校準備)一〇	<p>一、人員配當 小石少砂計量並運搬... 六名 コンクリート担... 二名 コンクリート突... 一〇名 用水係... 二名</p> <p>二、作業 1、コンクリート製造(担... 一担單位)場所敷地南 (一)小砂 三斗 二人向ひ合ひ (二)セメン 一斗 小シヨベルにてよく攪拌 (三)水 小石 六斗 攪拌混合 (一)攪拌要領</p> <p>2、コンクリート運搬 3、コンクリート突 棒杭にて流し込む 中央へ移動せしむ 棒杭をよく突き石塊を</p>	<p>温室建設に當り教育の活資料として本作業を採用し愛郷愛 校の精神並に經費節減の積極的實踐態度を養ひ併せてコンク リート土工の方法を體驗せしめ簡單なる家庭コンクリート工事 の技術能力を養ふ</p>	<p>協同一致の精神 作業力並身體の鍛練</p>	<p>一、目的指示、人員配當、用具準備 二、作業指範 分量、方法並要領 三、作 業</p>	<p>一、各係毎に責任作業遂行 二、作業圓滑なる進行の爲相互の協力 三、結果の完全仕上を目指し各作業に全力集中 四、一時間毎に各係交替途次循環</p>	<p>一、作業に對する反省並講評稱贊 二、コンクリート担其他要領ノート記憶</p>		

む す び

月一つ枯野の原を照しけり

全校一丸の強き結合と勇ましき歩武を描へて行進をつゞけては來たものゝ、かへり見れば我等のあゆみの跡は末枯れ淋しい枯野原でありたゞ月一つが天空はるかにかゝつて高く照してゐるやうな心地がする。國民學校の月は高く輝いてはゐるが我が踐む教育の野には末枯の淋しさと冷たさが満ちて新しき蒼草の芽生への春には未だ遼遠である。

山はくれて野は黄昏のすゞき哉

われゝの門出は眞に華々しかった。然しすつかり道をまよひ行きくれて教育の野の廣さにさまよつてゐる姿である。だが行きくればさまよつた野中には黄昏の光の中に白く光り輝きそよぐすゞきを見出し、やがてのぼるべき月をも見る事が出来るのである。

道案内者の我々の迷ひの中に子供達のみは生きゝと白く輝き迷ふ者を常になぐさめ、力づけてゐてくれる。ほんとに子供達のみが黄昏の中に輝いてゐてくれるのであつて、我々にはたゞ子供に對する感激と感謝がこみ上げてくるのである。

我々はどうしても我々の歩みを止める事は出来ない。迷ふ事なく行きくれる事なく正しく直くより以上に強く勇ましく行進をつゞけねばならぬ決意を強くするのみである。

茲に稿を結ぶにあたり無名の句と蕪村の句を借り來つたのであるが、我等のさゝやかな研究は自ら抽象的となり論理的に飛躍を來し其の意をつくさぬをおそれ讀者諸兄のよりよき善意の解釋を切に希ふ次第である。

終り

昭和十五年二月二十五日印刷
昭和十五年三月一日發行 「非賣品」

著者 西村 泉 磨
滋賀縣高島郡本庄尋常高等小學校
代表者

發行者 西村 泉 磨
滋賀縣高島郡本庄尋常高等小學校
代表者

印刷者 中村 太古 舍
大津市四ノ宮町一六

電話九九番

